

東北関東大震災について

理事長 石井 暎禧

この度、私たち日本人は、東北・北関東地方を襲った地震と津波及び原発事故によって、先の大戦以来と言われるほどの大災害を経験することになりました。犠牲者の数は2万人を超えるとも言われていますが、いまだに、はっきりした規模は不明です。現在集計中ですが、わがグループの1800人の職員の中でもおよそ15人に1人が、両親をはじめとして親戚縁者が死亡・行方不明、あるいは家が流され避難所生活を余儀なくされていると推定されています。不幸のあった職員には心から同情すると共に全職員と一緒に何らかの援助が出来ないかを考えていきたいと思います。

翻って、今次災害を考察するに、私達が、支援活動を行った阪神・淡路大震災及び中越地震と比較して様相が異なっているところがあります。それは、余震の影響の他に、計画停電に因る診療機能の低下等によって私たち自身が2次的被害を受けていることです。

この様な状況下、私達は、地域で発生する急性の疾患や、在宅の看護・介護の需要に対し、制約のある中で最大限応える事によって地域の命と健康を守っていかなくてはなりません。それと同時に、被災し、避難して来た被災者に対する医療・介護の需要に応えなくてはなりません。東北は私達のすぐ隣の地域です。

又、現在散発的に行っていますが、今後出かけていく医療支援にも取り組まなくてはなりません。それは、今回の場合、震災の規模から見て延々と長期にわたるものになる可能性があります。

「国、地方自治体、NGO等に協力して災害救援活動を行います。」

上記は、石心会グループの理念と行動方針の中の言葉です。自然災害は、あすはわが身が救援される立場となり得る不幸です。上記の言葉をかみ締め、最大限の力を持って、被災者を支援していきましょう。

看護師募集 最前線

来年度に向けた看護師募集はすでに始まっています。
川崎幸・狭山両病院の看護師募集の「今」を特集します。

川崎幸病院
「新病院」の次の夢は
「マグネットホスピタル」です！
～最高のスタートを切るための勝負の1年～



川崎幸病院 看護部長
佐藤 久美子

3月26日にミューザ川崎にて川崎幸病院単独で就職説明会を開催しました。東北関東大震災の影響があるにもかかわらず、22名の就職希望者に参加いただき、充実した説明会になりました。

■ **アピールしたいのは、やはり「新病院」!**
「器が新しくなる」のは大きいです。「ハード面」と「高度な医療内容」のギャップが原因で採用のマッチングで苦心することもありました。当院の高度専門医療の「内容の充実」に「ハード面の建物」が追いついたことで「川崎幸病院は高度医療を提供します!」と、求職者に一本筋の通ったアピールができます。

■ **教育の目玉は「救急対応のできる人材育成」**
「2年間で救急対応ができる看護師を育てる」。わかりやすく言うと「心肺停止した患者を目の前にして、的確な蘇生対応ができるか?」です。教育の成果なのか、「街中で心肺停止された患者さんに適切な対応をした」と、当院で教育中のスタッフが何名か表彰を受けています。私たちの教育方針が間違っていないと励みになりますね。新病院はハード面も「救急受入体制」が強固になります。本領発揮です。

■ **採用は12月までが勝負**
新病院に間に合わせるために、12月までに採用に決着をつけ、新病院に向けた体制を作っておきたいのです。事前に細かい運用面を構築しておかないと「最高のスタート」が切れないですから。

■ **「マグネットホスピタル」が次の夢!**
次の夢は「マグネットホスピタル」です。患者も職員も吸い付ける、魅力ある病院にしたいです。振り返ると、「10:1取得」⇒「7:1取得」⇒「新病院」と人材集めに追われてきました。新病院後は、やっと腰をすえて看護の「質」の追求ができます。「質」の向上により「マグネットホスピタル」が現実になるのです。

■ **勝負の一年になります**
新病院を7:1でスタートを切る。それができなければ私の「明日」はないです(笑)勝負の一年です。

看護師採用に追われてきた佐藤部長が、今改めて胸に抱く夢は、「『質』を追求し『マグネットホスピタル』になること」。そのために今年が勝負の1年だ。その言葉から強い決意と熱意を感じるのである。



新病院効果もあり、多くの学生さんに足を運んでもらいました!

狭山病院
「個性を大切にし、じっくりと育てる教育」が
狭山病院の魅力
～2年間で一人前に～



狭山病院 副院長・看護部長
水野 たつ子

■ **なによりも「教育」、じっくりと「教育」**
「2年間で一人前に」を基本方針とし、じっくりじっくりと時間をかける「教育体制」が狭山病院の醍醐味です。合同説明会でその教育方針に魅かれて入職を決断する方が非常に多いです。当院では「1年目は基礎」、「2年目は応用」、個々の看護観が育ったところで海外(米国)研修へとステップを踏んだ教育スケジュールを組んでいます。

■ **教育は「人を大事にする」ことが第一歩**
全員が同じレベルではないからこそ「個性を大切にし、じっくり育てること」を大事にします。特に院内研修では、一人一人の顔が見えるように研修参加人数も工夫して20名以上での研修は組みません。加えて、診療部・コメディカル部も含め、組織全体として「後輩を育てていく風土」があります。それが狭山病院の魅力ですね。

■ **狭山病院が育てたい看護師像は**
「指示待ち族」ではなく、自分で判断する「判断力」、自ら動く「行動力」を持ち、自らの行動に「自己責任」を持てる看護師に育てたいです。「組織人」として自律して、自ら看護を展開できる看護師になってほしいです。そしてなにより「救急マインド」を強く持ってもらいたいですね。



学生の立場に立った親身な説明に、水野副院長の人格があらわれています。

■ **地域完結型医療の実現という使命を帯びて**
「患者をいかに在宅に帰すか?」地域完結型医療の中核を担う狭山病院の最大の使命です。総合クリニックに「看護外来」を設置し在宅支援体制をつくり、「患者の退院後の生活を見越した看護」をアセスメントできる人材育成が使命となってきますね。

■ **自分の組織のアイデンティティを示すことが大事**
「石心会の理念は?」「求める人材は?」求職者にははっきり示すことが大事です。全国の看護学校を年間150校訪問し、狭山のアイデンティティを訴え続けています。地道な広報が採用に結びつくのです。

■ **看護体制7:1について**
6月に7:1申請を目標に採用活動をしております。

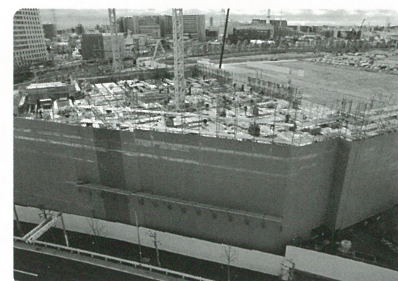
「私たちのアイデンティティは『教育』です」と胸を張って言えること、そしてその言葉と違わない「教育ビジョンと教育体制」を構築していることこそが、狭山病院の最大の魅力である。

看護師募集 最前線

川崎幸病院新築移転計画・工事進捗状況 (平成23年2月末日現在)
地上3階部分の工事が急ピッチで進行しています。



〈2階部分床の打設中
平成23年1月31日〉
工事もようやく2階部分に
さしかかりました。



〈3階部分床の打設中
平成23年2月18日〉
3階部分に着手です。
だんだんと高くなっていきます。



3階床及び躯体部分 (柱、壁)の「配筋、型枠」工事

看護師募集 最前線

川崎幸病院単独での就職説明会を開催

■ **川崎幸病院初の試み**
3月26日(土)、川崎幸病院が単独での看護師就職説明会をミューザシンフォニーホール研修室において開催いたしました。合同で無く、単独での説明会開催は、今回はじめてとなります。当日は、震災の影響を色濃く受ける状況にもかかわらず、22名もの就職希望者に参加いただき、参加者の中には新幹線で遠方から来た方も見受けられました。佐藤看護部長も、「こういった状況だからこそ、前向きに取り組んでいくのだ!」という熱い想いで臨み、幸病院「初の試み」は好評のうちに幕を閉じました。

冒頭、佐藤看護部長から石心会の理念、看護の理念が語られました。その中でも特に「2年間で救急対応ができる看護師を育てる教育体制」を強調していました。



説明に力が入る
佐藤看護部長

沢副院長にも
ご協力いただきました

続いて、教育担当の丸田科長は、入職から2年間の教育スケジュールを詳しく説明していました。「高度専門医療における実戦的看護を2年間かけて身につけることができる」。これが、川崎幸病院看護教育の一番のセールスポイントです。最後に沢副院長からは、医師の目線からみた川崎幸病院の良さを語っていただきました。「職種間の垣根を越えたコミュニケーション」が活発な病院であると、熱く語られていました。

■ **双方向コミュニケーションを大切に**
後半は、幸病院の現職の先輩看護師を交えて5~6名のグループに分かれ、「座談会」形式での自由な意見交換の場が持たれました。説明会はどうしても一方通行になりがちですが、座談会の時間を多めに設けることで、双方向コミュニケーションを活発にしようというねらいです。参加者も肩の力を抜いて、素直な疑問を先輩看護師にぶつけていました。



参加者の質問に
親身に応えます



座談会の模様

最後に、新病院の建設現場を参加者に実際に見学してもらい、「新病院で働くイメージ」を個々に深めてもらいました。その後に用意した食事会の席には参加者全員が参加し、親睦を一層深めていました。

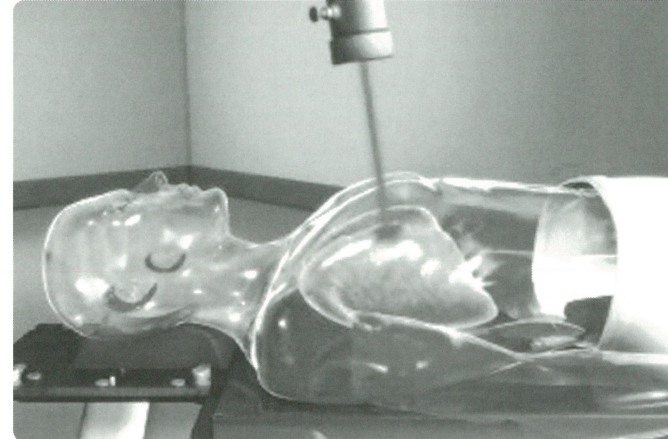
川崎幸病院では、8月にも単独説明会の開催を予定しています。



サイバーナイフセンターNOW! Vol.2

■『肺がんの定位放射線治療』が無事スタート!

2月16日横浜サイバーナイフセンターは、国内第2施設目となるサイバーナイフによる『肺がんの定位放射線治療』を無事スタートさせました。今回は名古屋市立大学放射線科の協力により「臨床試験」というかたちで治療がはじまりました。



サイバーナイフを用いた、肺腫瘍への定位放射線治療のイメージ図

■臨床試験とは?

今回の治療はこれまで放射線治療で正確な計算が難しかった『肺がん』に対し照射する線量を正確に計算する最新の計算方法が用いられています。この新しい計算方法を用いた治療の効果と副作用を客観的に分析することが今回の臨床試験の大きなポイントです。新しい線量の計算方法「モンテカルロ」で計算を行い、30名の患者に対して臨床試験での治療を行う予定です。



今、立川新緑クリニックが生まれ変わります。

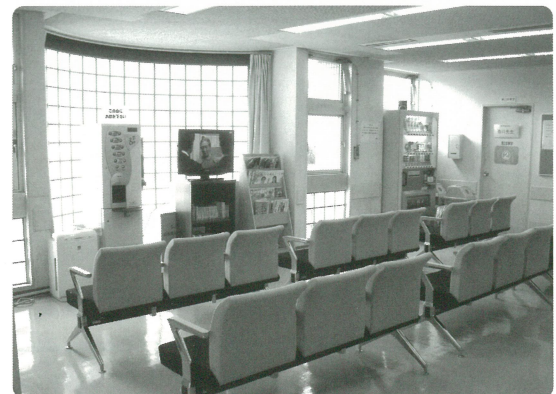
3月1日にMRI装置を新規導入し、今まさに生まれ変わろうとしている立川新緑クリニック営事務長にお話を伺いました。

■就任後3ヶ月を振り返って

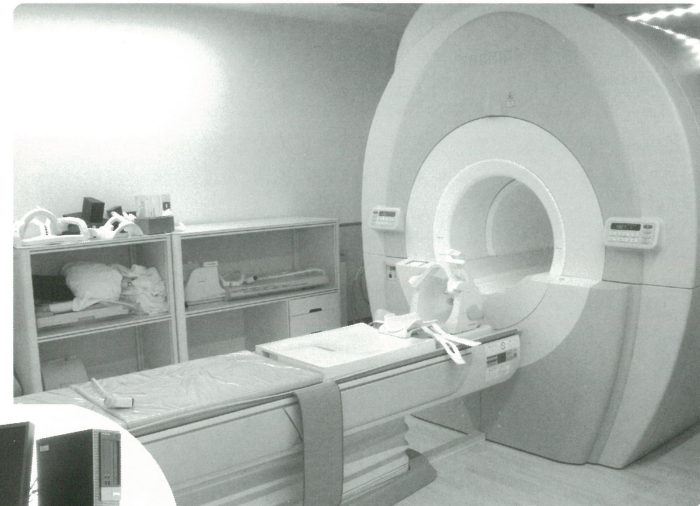
1月4日に事務長に就任した時は、いわゆる「廃棄物の山」であり、お世辞でもきれいとは言えないクリニックでした。不要物品の破棄、院内の美化徹底などのハード面での改善に全力投球の3ヶ月でした。

■院内の雰囲気も変わりましたね?

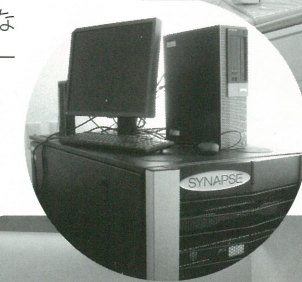
今までは「入院病棟の廃止」など「縮小経営の傾向」にあり、それは職員や近隣の方にも悪い影響を与えていたと思います。しかし、今回、MRI装置の新規導入をはじめ、外来待合スペースの家具の入れ替え、PACS (医療用画像管理システム) の導入など、一気に「拡大傾向」に一新したことで、職員のモチベーションは確実に上がりました。それを肌で感じています。



明るく広くなった待合スペース



新規導入したMRI



新規導入したPACS



■今後の展望は?

現在1日60名である外来数を「1日100名」にすることが新年度の目標です。職員の志気は上がっています。職員一丸となり、まずはこの目標を達成することにより、次のステージを目指します。

MRI検査待合室、シックな黒にしました



石心会グループの活動 (2011年1~2月)

川崎幸病院

- 1月 9日 川崎幸病院 一般市民特別消防協力団体として市長表彰を受ける
- 1月14日 石心会川崎地区新年会 参加者 350名
- 1月23日 湘南国際マラソンに医療ボランティアとしてE M T科から4名が参加
- 2月 9日 復職支援セミナー開催 参加者6名
- 2月26日 看護部・事務部・コメディカル部合同研究発表会開催 21演題 150名参加
- 市民健康講座
1月27日 江守宅(川崎区) ボランティア健康講座『からだに良い食事』
講師: 栄養科主任 / 久米 直子 参加者14名
2月26日 川崎区桜本2丁目町内会健康講座
『尿が近くて困っていませんか? ~過活動膀胱と前立腺肥大症~』
講師: 泌尿器科 / 石川 寛之医師 参加者35名
- 外部医療機関対象講座
1月24日 『C R T (心臓再同期療法)による慢性心不全治療』 講師: 循環器内科医長 / 猪原 実医師
『症例検討』講師: 循環器内科 心臓病センター長 / 塚本 喜昭
Saiwai循環器ミーティング 参加者20名
- 救急隊向け勉強会
2月 2日・9日 『腹痛を主訴とする搬送患者の症例について』
講師: 消化器内科 / 菊岡 良考医師 参加者計21名

川崎幸病院 中原分院

- 1月29日 第24回うるおいコンサート 合奏: おさかなカルテット
- 公開講座
1月15日 『治る前立腺肥大症~体にやさしい最新レーザー治療~』
講師: 川崎幸病院泌尿器科医長 / 野田 泰照 参加者43名
2月12日 『生理検査でわかる事~超音波検査の魅力、実力...~』
講師: 川崎幸病院検査内視鏡科主任 / 石田 なおみ 参加者26名
- 院内勉強会
1月25、27日 『がんに対する化学療法-肺癌-』 講師: 中外製薬株式会社
2月24日 『輸液の第一歩』 講師: 株式会社大塚製薬工場

狭山病院

- 1月14日 石心会狭山地区合同新年会(川越プリンスホテル) 参加者 325名
※同時に永年勤続者表彰 77名(20年3名、15年9名、10年12名、5年53名)
- 1月29日 平成22年度 安全対策成功事例報告会(14題発表) 参加者94名
- 2月 5日 研修医症例発表会(14題発表) 参加者61名
※研修期間中に印象に残った症例を取り上げ、初期研修医2名、後期研修医12名が症例を発表しました。
- 2月15日 看護師復職支援セミナー(狭山病院) 参加者3名
- 2月26日 第13回コメディカル部発表会(12題発表、特別講演1題) 参加者139名
- 院内勉強会
1月18日 『がん診療の進歩(8回目)☆胆嚢癌・膵癌診療 update』 参加者49名
2月 7日 『第3回 キャンサーボード狭山』 参加者36名
2月15日 『☆癌緩和ケアにおける最近のトピックス』 参加者44名
2月22日 『CV-LINE留置 講習会』 参加者43名
2月25日 『Helicobacter pylori(ピロリ菌)除菌治療について』 参加者39名
- 地域医療連携・公開カンファレンス
1月21日 『2型糖尿病治療の現状~医療現場の葛藤と奮闘』
講師: 埼玉医科大学総合医療センター内分泌糖尿病内科 准教授 / 大村 榮治 参加者94名
2月22日 『心房細動 Update Web Conference』
講師: 財団法人心臓血管研究所 常務理事・研究本部長 / 服部 健司 参加者48名
- 2月19日 『大腸がん市民公開講座』 東京家政大学狭山校舎 参加者182名
座長: さやま総合クリニック / 河村 院長
演者: 狭山病院 / 堤 副院長
近年日本人に増加している「大腸がん」をテーマに、質疑応答も活発に行われる有意義な講座となりました。





石心会グループの活動 (2011年1～2月)

川崎幸クリニック	● 1月13日 第93回 気功教室 講師：臨床心理士 / 稲富 正治 参加者5名 ● 2月13日 第94回 気功教室 講師：臨床心理士 / 稲富 正治 参加者5名 ● 1月18日、2月15日 認知症の方の家族の会 参加者延11名 ● 1月28日、2月18日 川崎区こども支援室『不登校について学ぶ会』 講師：臨床心理士 / 諸富 亜紀 参加者延16名 ● 2月17日 川崎市看護協会 看護研究・活動報告会 『在宅看取りにおける訪問看護師の役割 ～家族の精神的支援～』 発表者：訪問看護室 看護師 / 花澤 秀子 ● 2月17日 公開講座『医療費の負担見直してみませんか ～医療費控除と医療費助成制度のお話～』 発表者：患者サービス課 / 前原 忍 参加者5名 ● 2月19日 第8回Q C 活動報告会 参加者43名 1.『心療内科医とのカンファレンス実施の試み ～患者対応の向上を目指して～』 発表者：心理相談室 / 諸富 亜紀 2.『自費材料の会計入力の見直し』 発表者：患者サービス課 / 山室 佳南子 3.『職員食の改善』 発表者：宮崎 恵美子 4.『医療相談の現状とその課題 ～来室経路をたどって～』 発表者：医療相談室 / 保阪 邦寛 5.『運動療法予約業務の見直し ～運動療法処方から実施までの期間短縮の取り組み～』 発表者：リハビリテーション室 / 赤坂 裕計 6.『胸部X線写真における画像処理条件の最適化について』 発表者：放射線科 / 佐藤 伸彦 7.『ホルター心電図における行動記録メモの改善』 発表者：検査室 / 佐竹 愛 8.『在宅看取りの家族指導のとりくみ』 発表者：訪問看護室 / 屋代 多恵子 9.『2・4階診察室内の伝票補充方法の見直し ～診察介助を円滑にするために～』 発表者：看護科 / 田邊 真由美 ● 2月24日 感染対策委員会定例勉強会『手指消毒について』 講師：サラヤ株式会社
さやま総合クリニック	● 糖尿病教室 2月 3日 『運動療法』について 講師：理学療法士 / 天野 晴光 参加者15名 3月 3日 『減塩のすすめ』 講師：管理栄養士 / 安達 順子 参加者15名 ● 健康教室 1月22日 『胃がんについて学ぼう』 講師：外科医師 / 高橋 剛 参加者20名
川崎クリニック	● 1月11日 循環器疾患に伴う透析患者の看護 参加者17名 ● 2月 8日 透析導入期患者の看護 参加者15名 ● 2月19日 ケイキサレートドライシロップ勉強会 参加者17名 ● 3月10日 パスキュラーアクセス勉強会 参加者21名
さいわい鹿島田 クリニック	● 1月21日 維持透析患者の看護 参加者21名 ● 1月30日 第2回『石心会・東京石心会透析施設交流会』 参加者29名 ● 院内勉強会 2月 4日 高齢患者の看護 森下主任 参加者21名 2月 8日 導入期患者の看護 安達主任 参加者 6名 2月15日 リスクマネジメント 島田主任 参加者17名 2月18日 感染管理 森 主任 参加者18名 3月 8日 新人指導の仕方 参加者18名
さやま腎クリニック	● 院内勉強会 2月 2日 研修報告・事例検討会『看護師の倫理について』 講師：看護科 / 松田 しずく 参加人数18名 ● 2月13日 『泉会(患者会)新年会』への参加 会場：ヘリテージリゾート飯能 参加人数14名(職員)
昭島腎クリニック	● 1月30日 石心会・東京石心会透析施設交流会 研究発表『当院の重度合併症を有する透析患者の通院送迎の取り組み』 発表者 齊藤 まさ子 ● 院内勉強会 1月26日 『難治性疾患ファブリー病勉強会』 講師：J-FAST 参加者32名 2月17日 東レ T R 3000M A 講習会 講師：東レメディカル 参加者22名

アルファメディック・クリニック	● 1月28日、29日 日本総合健診医学会第39回大会 演者：臨床検査科 / 春田 磨美 参加者 6名
川崎健診クリニック	● 1月28日 日本総合健診医学会 第39回大会 参加者3名 ● 2月 4日 小川町町内会健康講座講演会 講演者：院長 / 清川 忠男 ● 2月11日、12日 社団法人全国労働衛生団体連合会 生理機能検査研修会 参加者 1名
新緑脳神経外科	● 2月24日 院内勉強会開催 講演①『リスク管理について』 講師：川崎幸病院 医療安全管理課 課長 / 今村 壽彦 講演②『放射線医科学研究所 看護研修を終えて』 講師：新緑脳神経外科 看護課主任 / 北川 あけみ 講演③『インシデント報告と対策について』 講師：院長 / 横田 尚樹 参加者 44名
立川新緑クリニック	● 2月24日 M R I 安全教育(職員向け講習) 参加者15名 ● 3月 1日 M R I ・P A C S 稼動
立川介護老人保健施設 わかば	● 勉強会【施設内】 1月26日 全老健(岡山)大会報告 参加者 21名 2月18日 キャリア形成訪問指導事業研修『身体を壊さないための介護実践』 講師：白梅学園大学 / 西方先生 参加者 35名 ● 勉強会【施設外】 2月15日 東京都老健大会 参加者4名(演題発表 1 名、その他3名) ● 施設行事 1月8日 東京石心会新年会
立川市北東部わかば 地域包括支援センター	● 地域活動 1月28日、2月4日・19日 『男の料理教室』 幸学習館、若葉会館 参加者 延55名 - 毎木曜日 麻雀サロン(障害者や高齢者) 老健わかば2F 地域交流ルーム 参加者延77名 1月 5日、2月7日 『豊生会サロン(老人会での介護教室)』 南部自治会館 参加者延70名 1月17日・24日、2月7日・14日 『ひだまりサロン(地域高齢者おしゃべり会)』 幸児童館 参加者延11名 2月 5日 『男性介護者の集い』 他市の認知症家族の会の世話人を招き勉強会 幸学習館 参加者 3名 1月15日・29日、2月26日 『スマイルサロン(高齢者孤食防止食事会)』 たけの屋店舗跡 参加者延28名 2月28日 栄町グッドネイバー共催『老人施設っていくらかかるの?』学習会 さかえ会館 参加者26名 1月17日 若葉・栄町の福祉を考える会、若葉町グッドネイバー共催 地域福祉映画会『ただいま』 若葉会館 参加者 85名 ● 地域(若葉町・栄町)情報誌(まちなっと) 春号2月発行 若葉町・栄町の約1,200世帯へ配布
特別養護老人ホーム オリーブ	● 1月 1日 元旦抹茶会 参加者50名 ● 1月 2日 氷川神社へ初詣 参加者12名 ● 1月 9日 新年会 参加者67名 ● 1月17日～2月2日埼玉福祉専門学校 社会福祉科実習 受入 1名 ● 1月17日～25日東京福祉大学 教員免許取得実習 受入 1名 ● 1月22日 シエラ・ベルデの会(フォルクローレ演奏) 参加者85名 ● 2月 1日～10日 ヘルパー実習 受入延べ8人 ● 2月 3日 節分 豆まき 参加者60人 ● 2月18日 あおば幼稚園園児による卒園公演開催 参加者57名 ● 1月・2月中4日間 ボランティア受入内部研修実施 参加者延べ20名
狭山市入間川・入間川 東地域包括支援センター	● 地域活動 1月11日、2月6日 入間川地区民生委員、入間川東地区民生委員との定例情報交換会 狭山市社会福祉会館 参加者延60名 ● 1月27日 『認知症予防講座』 田中公民館 参加者22名 ● 1月25日 『認知症サポーター養成講座』 上諏訪コミュニティーセンター 参加者17名